

令和4年度 第1回都島区区政会議 会議録

1 日時 令和4年6月14日（火）午後7時～午後8時40分

2 場所 都島区役所 3階会議室

3 出席者

（区政会議委員）

池田委員・猪原委員・江川委員・熊本委員・高田委員・高野委員・谷委員・中口委員・中山委員・濱崎委員・早光委員・平野委員・前田委員・山田委員

（市会議員・府議会議員）

八尾議員・岡田議員・大西議員・魚森議員

（都島区役所）

大畑区長・土居副区長・吉村総務課長・三井政策企画担当課長・松井まちづくり推進課長

細谷防災地域活性担当課長・高田窓口サービス課長・世古口保健福祉課長・清原こども教育担当課長・

坂下健康推進担当課長・筒井生活支援担当課長

4 議題

- (1) 令和3年度運営方針の自己評価について
- (2) その他

5 会議次第

- (1) 開会（大畑区長挨拶）
- (2) 議事

【吉村課長】

皆様、こんばんは。定刻より少し前でございますが、皆様お集まりですので、始めさせていただきたいと思っております。

委員の皆様には、お忙しい中、ご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

これより令和4年度第1回都島区区政会議を始めさせていただきます。

私は、本日の司会を務めさせていただきます総務課長の吉村です。よろしくお願いいたします。

それでは、初めに、区長の大畑よりをご挨拶させていただきます。よろしくお願いいたします。

【大畑区長】

どうも皆さん、改めまして、こんばんは。区長の大畑でございます。

平素は、区政全般にわたりまして、ご理解、ご協力を賜りまして、本当にありがとうございます。厚く御礼申し上げます。また、今日は雨の中、ちょっと天候が悪い中、お越しいただいて、本当にありがとうございます。また、今日はオブザーバーとして、市議員の先生方にお越しいただいております。本当にありがとうございます。

大西先生はウェブでご参加ということですので、またよろしく願いできればと思います。

【大西議員】

よろしく申し上げます。

【大畑区長】

よろしく申し上げます。ありがとうございます、お返事いただき。よろしく申し上げます。

このメンバーでは3回目の区政会議にはなるんですが、令和4年度の第1回目ということで、ちょっと皆さんからご覧になって少し景色が違うかもしれないんですが、我々人事異動で、かなり職員のほうも入れ替わっておりますので、また後ほど自己紹介をさせていただきたいというふうに思っております。また、新たな職員と一体になって、令和4年度も頑張っていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

今日は、令和4年度の第1回目ですので、議題にも書いてあるんですが、令和3年度がどうだったかという、運営方針の自己評価、これが一番のポイントになります。去年1年間どうであったのかということで、自己評価並びに区民アンケートの数字とかも出ておりますので、その報告をさせていただいた上に、いわゆる今年度、今年度スタートして約3か月ですが、今年度どのあたりにポイントを置いて、どこを頑張っていけばいいのか、そしてその頑張っていく上で、皆さんからちょっとアイデアをいただいたりご意見をいただいて、我々がどういう方向でやっていけばいいかという、ちょっとお知恵を今日拝借できたらなと、そんな感じで考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

私から以上です。

【吉村課長】

ここで、委員の皆様にご挨拶の進行につきましてお願いがございます。議事録等の作成のため、事務局で会議の様子を録音、撮影させていただいております。また、本日の会議は、インターネット配信を行っております。以上、ご了承賜りますようお願い申し上げます。

それでは、定足数の確認をさせていただきます。本日の会議には、委員定数18名のうち14名の方が出席されておりますので、定足数を満たしておりますことを報告いたします。

また、伊藤委員、鷹取委員、西村委員、彦坂委員におかれましては、本日ご欠席のご連絡をいただいておりますので、ご報告させていただきます。

続きまして、資料の確認をさせていただきます。事前にお送りしていただきました資料といたしまして、右肩に資料1と記載しております「令和3年度運営方針の自己評価」、右肩に資料2と記載しております「住みます芸人を活用した地域活性について」、あと本日新たにお配りする資料といたしまして、右肩に当日配付資料と記載しております「令和3年度運営方針の自己評価（重点ポイント）」、また机上封筒の中には、3月に実施しました令和3年度第3回区政会議の要旨及び、同じく3月に実施しました令和3年度第1回区政会議（部会）の要旨が入っておりますので、お持ち帰りください。

以上が、本日の資料になります。そろっておりますでしょうか。

それでは、続きまして、本日出席の議員の皆様をご紹介させていただきます。

まず、大阪市会より八尾議員でございます。

同じく岡田議員でございます。

大阪府議会より魚森議員でございます。

そして本日オンラインでご出席の大阪市会、大西議員でございます。

続きまして、4月の人事異動により着任いたしました職員及び区内部で役職変更となった職員を紹介させていただきます。

まず、副区長の土居でございます。

政策企画担当課長の三井でございます。

防災地域活性担当課長の細谷でございます。

窓口サービス課長の高田でございます。

こども教育担当課長の清原でございます。

生活支援担当課長の筒井でございます。

そして私、総務課長の吉村でございます。

以上、どうぞよろしく願いいたします。

それでは、これより高野議長に議事運営をお願いいたします。よろしく願いいたします。

【高野議長】

それでは、ご指名にあずかりましたので、これよりは、議長の私、高野が進めていきたいと思っております。今日もどうぞよろしく願いします。

それでは、議題に入ります。

議題1、令和3年度運営方針の自己評価についてです。

こちら担当部署の事務局、三井政策企画担当課長からご報告をまずはお願いいたします。

【三井課長】

政策企画担当課長の三井でございます。私から説明させていただきます。

失礼して座らせていただきます。

まず、資料1、令和3年度運営方針の自己評価でございます。1年間の取組成果と振り返りでございます。区運営方針に掲げる各経営課題の戦略ごとの具体的取組につきましては、着実に推進できており、目標はおおむね達成いたしました。一定の成果を得ることができたと認識してございます。

各経営課題のめざすべき将来像・自己評価を要約した令和3年度の運営方針というのは、その資料の右側にQRコードを載せておりますけれども、ホームページのほうに全部載せております。それが量としては非常に多ございますので、本日、当日配付資料としてお配りしております令和3年度運営方針の自己評価（重点ポイント）、そちらのほうで、ポイントを絞ってご説明させていただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

令和3年度の区政運営につきましては、左上のほうに四角囲みで4つの経営課題を記載しておりますけれども、その経営課題の下に取り組みまして、いずれも取組としては、有効な取組であることから、今後も継続して取

り組むこととしております。しかしながら、進捗が順調でない取組が3件ございますので、その内容を抽出して、取組を推進するために令和4年度に重点的に取り組む内容を含めまして、このペーパーで一覧にしております。

まず、左下の1-1、防災のまちづくりにつきましては、区民が自助・共助の役割を認識し、災害の備えができていない状態をめざしてしておりますけれども、その右のグラフで示しておりますように、災害への備えができていない区民の割合が目標75%に対して62%、避難場所を知っている区民の割合が目標85%に対して70%となっております。その下に、資料の一番左下になりますけれども、令和4年度に重点的に取り組んでおります内容を記載しておりますけれども、地域と連携した防災訓練や防災意識向上のための啓発、また個別避難計画や地区防災計画の策定による地域防災力向上のための支援、こういった取組に取り組んでいるところでございます。

次に、右上の1-2、防犯のまちづくりにつきましては、街頭における犯罪の防止、犯罪に巻き込まれない安全で安心なまちづくりというのをめざしてしておりますけれども、右側のグラフのとおり、交通安全教室などが事故防止につながっていると感じるかとの質問に対し、つながっていると感じる区民の割合が目標60%以上に対して42%となっておりますことから、令和4年度は、自転車マナー・駐輪マナー啓発の実施、また交通安全教室や出前講座の実施、SNSを活用した交通安全情報の発信強化に重点的に取り組んでまいります。

その下の運営方針、経営課題4-2、区役所の運営についてでございますけれども、こちらは窓口サービスの向上をめざしまして、格付評価が3.5以上、目標としておりますけれども、令和3年度は5項目中1項目が3.5以上にとどまったところでございます。令和4年度は、下のほうに書いております重点的取組といたしまして、カイゼンチームによる市民サービス向上への取組、外部講師による接遇研修の実施、また高評価を獲得した他区への視察などを通じまして、評価3.5以上、全項目で達成するよう取り組んでまいります。

長くなりましたけれども、令和3年度の取組の総括と、今年度の重点取組の内容でございます。

それでは、資料1のほうに戻っていただきまして、先ほどの内容も踏まえまして、本日、区政会議委員の皆様にご意見をいただきたい内容について、簡単にご説明させていただきます。

資料中ほどの経営課題1、安全・安心のまちづくりの中から、自助・共助の取組の推進でございます。全区民が災害への備えをし、避難行動できる状態をめざし、地域が実施する防災訓練の支援や地域防災リーダーの育成など、防災意識の向上に取り組んできたところでございますけれども、その下のグラフにありますように、区民アンケートの結果では、住民同士の助け合い（共助）の重要性について、約3割、28%の方が認識していないと回答されまして、また右側、若年層の方のほうはその割合が高くなってございます。また、その下に、アンケートの自由意見欄からの抜粋ですけれども、地震が起きた場合の対処方法や、防災・減災の観点からの地域コミュニティの形成についてのご意見がございました。

そういった内容を踏まえまして、一番下の四角囲みに書いております、共助の認識向上に向けまして、若年層の意識向上・防災訓練の参加率向上につながるアイデアですとか、地域での取組などについてご意見をお聞かせいただきたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。

【高野議長】

ありがとうございました。担当の三井政策企画担当課長から、自己評価とそして課題についてお話をいただきました。

補足になるんですけれども、お話をこの会議前に伺ったのは、公助の限界というものが各行政ともにあると

いうことを聞きました。東日本大震災、それから阪神・淡路大震災でも明らかになったところなんですけれども、やはり行政そのものが被災して、行政がこの我々市民を助けてくれるというものに限界があるということが分かりましたので、それから自助と共助ということが言われて久しいという状態です。ただ、防災訓練や、そしてお一人で住んでいるお年寄り、高齢者の方をどうやって、共に助けていくのか、あるいは自分たちがどのように行動したらいいのかということを知らないということが若年層を中心にはっきりしたということで、ふだんから防災訓練をされていたり、あるいはお年寄りの数を把握されている区政会議に参加している皆さんに、どうやったらこの若い方にそういった自助・共助の取組というものを浸透させていけるかというご意見をお持ちだと思いますので、これから質疑、それからご意見、アイデアなどいただければと思います。

ということで、ただいま説明いただいた内容を踏まえて、若年層の防災意識の向上や防災訓練の参加率向上につながるアイデア、地域での取組などについて意見交換を行いたいと思います。何かご意見、ご質問がありましたら挙手でお願いします。

そして、前回からの修正点として、前回リモートで参加している区政会議の委員の皆さん、それから大西議員もリモートで聞いていただいたんですが、誰がしゃべっているのか、あるいはその言葉がよく聞き取れないというようなご意見がありましたので、今回区役所の方に本当に頑張っていて、マイクをたくさん配置していただいたので、委員の皆さんの声はお手元のマイクで拾えるかだと思います。そして、各担当課の課長の皆さんにおかれましては、事務局員がマイクをお持ちしますので、ご自身の名前、委員のお名前をおっしゃっていただいて、担当課長のほうも、今お話しいただいたのでしたら、三井政策企画担当課長でしたら、「三井です」というふうに言っていただくと、リモートで参加している方、今日は大西議員だけなんですけれども、誰が聞いて誰がしゃべったか分かりやすくなると思いますので、そのほうを留意してお話しいただければと思います。もし、お忘れの場合、私、補足して言いますので、必ず名前でこれから誰々がしゃべりますということルールとしてやっていただければ幸いです。

それでは、お願いします。ご質問のある方、アイデアのある方、挙手でお願いいたします。

少し考えていただいて、もしご質問や、自分たちの地域でこういうふうな取組をやっているというようなご意見でも構いませんので、言っていただければ、質問でなくてもいいかなと思います。個人的に逆に区政会議の皆さんにぜひ、意見があればお聞かせ願いたいんですけども、私、友渕町から来ているんですけども、マンションでなくて、友渕町、メガマンションが大きいんですけども、私が住んでいるのは一戸建ての集合地域でして、ここでやっぱり防災訓練をやったほうが良いという意見があったものですから、うちは25町会なんですけれども、その役員、3月まで役員やっていましたけれども、話し合っ、防災ワークショップというのを開こうということになりまして、当時、細谷担当課長に来ていただいて、防災ワークショップをやったんですけども、結果的に全然集まりませんでした。いいものだと分かっているんですけども、紙で回すだけだと、防災訓練とかそうやって段ボールベッドを設置するとか、非常の消したりするやつとか発電機、こういうのがあるという内容を送ったんですけども、文書で送ると全然やっぱり伝わらなくて、2回回覧版で回したんですけども、85区画で多分70ぐらいが会議に参加書いていない、町会に入っているんですけども、参加、役員の10人ぐらいだけだったんですね。これを継続してやっていく必要があるし、やっぱり参加してもらう必要があると思ったんですけども、全く参加してもらえませんでした。

うちは新しい地域なので町会の加入率も低いし、仕方がないかなと思うんですけども、ほかの古い地域においては、こういう防災訓練とかも積極的にされていると思うので、そういった、よくやれているところの地域はどうやって若い世代に浸透させているのかなということをごく思ひまして、そういったことも踏まえてやっぱりやっていかないといけないなと思ったものですから、そういったアイデアもいただければ帰りたいなと思って今日は来ているので、そんなことも含めて何かありましたらと思います。

区役所からお話のあった、認識していない層にどうやって認識させていくのかといったことに関してとか、質問がありましたら、この時間をもって聞いていただければと思いますけれども、何か意見はございませんか。

【早光副議長】

副議長ですが、取っかかりの話で、若年層というんですか、30代ですが、私とこの地域でもあまり若年層の方は興味がない、ですから興味がないので浸透させようという話になっていると思うんですけども、三井課長にお伺いしたいんですけども、今、我々の意見の前に、区としてはどういうふうな、若年層にこれを周知させるPR活動ということを考えているんでしょうか、先に。例えば広報もそうですし、これはほかの議題にもリンクしてくる話なんですけれども、広報誌がアンケートでは結構読まれると、読まれている世代がやはり印刷物で情報を取得するというか吸収する例だと思うんです。30代というのは、どちらかというと印刷物よりネットとかですよ、SNSで情報を取っていると思うんですが、実際にその30代の方を対象として、そういう情報提供なんですかね、例えば防災訓練をやりますとか、そういうことは現実ほどの程度されているか、ちょっと先にお聞かせ願うと。これは細谷課長のほうですか、すみません。

【細谷課長】

防災地域活性担当課長の細谷です。よろしくお願ひします。

まず、若年層の方々についてなんですけれども、この間コロナということで、若年層にかかわらず、お年寄りの方、中年層の方も、訓練であるとか、勉強会であるとか、お集まりいただく機会がなかなかなかったので、我々、後で、防犯であるとか交通安全なんかも僕、担当しているんですけども、SNSのほうは、フェイスブックなどでいろいろそういう情報発信のほうは大体週に1回ずつぐらいは何かの情報を流していたというようなことをやっております。

それと、若年層の方々については、我々、分館のほうで離乳食講座とかそういうところに、ふだん出前講座というのは注文を聞いて行っているんですけども、分館のほうでやっている離乳食講座とかそういう若いお母さん向けの講座のところは10分だけちょっと時間をいただいけませんかということで出かけて行って、お話をさせていただいているというようなこともやらせていただいています。なかなかこの間コロナで、出ていってお話しさせていただく機会がなかったんですけども、大体、月に何回か3回か4回ぐらいは分館のほうでやってくれてはりますので、そこに相乗りさせていただいて、お話しさせていただいています。

それと、先ほど言いましたとおり、フェイスブックであるとか、ホームページのほうもまめに更新はしていますので、その辺を見ていただけたらなと思っております。

【高野議長】

ありがとうございました。

今やり取りで、副議長が質問していただいて、細谷防災地域活性担当課長にお答えをいただきました。今、1

つやり取りがありましたので、前回ちょっと聞こえにくいという意見があったんですけども、すみません、リモートで参加の大西議員、今のやり取り、声は聞こえ方は明瞭だったでしょうか。

【大西議員】

ありがとうございます。すみません、めちゃめちゃいいです。ありがとうございます。

【高野議長】

ありがとうございます。では、このスタイルで続けていきたいと思いますので、よろしく願いいたします。ほかに、次にご質問ありましたらお願いいたします。

それでは、私のほうからすみません、ちょっとしゃべってばかりで恐縮ですけども、議長の高野です。

次のちょっと議題にも関連するんですけども、SNSとかユーチューブチャンネルの強化ということを次、議題に上げられるのでそれに関連してということもあるんですけども、今防災の話でしたので質問をさせていただきます。これも細谷課長にお答えいただきたいんですけども、出前講座であるとか、今の離乳食のこととか、非常にいい取組だと思んですけども、何か区役所のところに動画がアップされていて、防災訓練をどこどこ協議会で参加しました、実施しました、あるいはうちでやっていただいたみたいに段ボールベッドの設置とか、ああいったものの動画とか、実際に動いているものがあると、いいものかどうかというのが分かりやすいと思うんですが、そういう動画を制作されているのは防災課ではないと思うんですが、課同士で連携して、そういったものをアップしていただくというわけにはいかないのでしょうか。あるいはそんな計画があるのでしょうか、お答えをお願いいたします。

【細谷課長】

防災地域活性担当、細谷です。

動画のほうなんですけれども、防災の担当では、去年、おとしですかね、コロナがなり出した頃に避難所の開設の仕方のシミュレーションという形で1度、我々素人集団で作らせていただきました。防災とはまた別ですけども、自転車のほうの啓発についても、その次の4月ぐらいに、放置自転車やめようというような動画を作らせていただきました。ただ、我々素人で作っておりますので、やっぱり音声も悪いですし、構成もどうかかなとは思んですけども、300個ぐらいは全部なかなかぐらいの感じですよ。やっぱりその辺の発信力は要るのかなと思っています。動画のほうについては、いろいろと作らなあかなとは思っているんですけども、やはりその機材であるとか、その辺のほうはなかなか難しいかなと思っておりますが、努力はさせていただきます。よろしくお願ひします。

これですね。ちょっと見てください。

【高野議長】

今、動画の準備をされていまして、再生させていただきます。

【細谷課長】

避難所のシミュレーションということで、2年ですね。だから、ちょうど2年前ですね。音は、声のいい笠谷代理の声が入っているやつです。大体ガイドとして、今もうちいていますけれども、中川という係員がガイドをしていまして、シミュレーションをしていくような形になっています。当日ちょうど夏のシーズンに、シミュレーションの訓練をさせていただきましたので、各地域の方々も、そのブース、そのブースで参加していただ

いているような形で、動画のほうは進行しております。こんな感じで。

区役所の中を避難所に見立てて、こんなふうに避難所は開設しますというふうなことをやっております。ちょうどこういうふうに避難所が作られますというようなところを、今、淀川連合の方ですけれども、映っております。

というようなことを一応素人で作ったこともあります。ご紹介させていただきます。

【高野議長】

ありがとうございました。非常にすごくいいものだと思いますけれども、問題、それはユーチューブチャンネルで見られるんですよね。

【細谷課長】

はい。

【高野議長】

検索って何でしたらすぐ引っかけますか。今日、一応一覧を見てきたんですけれども、これが大分前のやつだったので上がってなかったように思うんですけれども、簡単に行き着くにはどうしたらいいでしょうか。

【細谷課長】

一応、都島区防災でやっていただいたら。

【高野議長】

ああ、なるほど。それを広めると多分、区民の皆さん、見やすいのかなと思ひまして、最新のやっぱりビーチの様子とか、ボロボロバイセコーがぼっぽテラスに行ったよというのがすぐ上がってくるんですけれども、そのほかの過去のが結構もう更新されて消されてしまっているように思うので、やっぱりここにすぐ行き着かないと、せっかくいいものなのにと思ったので、これの再生回数を上げるにはどうしたらいいかなとちょっと思いましたけれども。

【細谷課長】

ありがとうございます。

そしたら、ちょっとハッシュタグのつけ方とかそんなんも勉強させていただきます。

【高野議長】

そうですね、何かインスタグラムも今日から始められたと聞いていますので、何か連携してそこに導けるようにしたら若い世代には興味があるのかなと思ひましたけれども、ありがとうございます。

【細谷課長】

ありがとうございます。

【高野課長】

それでは、ほかに防災について、ご意見やまたアイデアございますか。

では、江川委員、お願いします。

【江川委員】

江川です。

ちょっと僕も町会の前に一般社団法人京橋で、メディア発信重視型まちづくりってやっているの、SNS発信

を主にやっているんですけど、コロナからフェイスブックは40代以上しかもう見ていないに等しいので、多分30代は引っかからないですね。インスタもちょっと古くて、もう見ていないです、その年代。TikTokぐらいしか見ていないかもしれないんですけど、またちょっと見方とかも、やり方も、僕らも考えているんですけど、そういうのを考えていかなあかんなど。ほんまに30代をめざすなら、多分そこには絶対フェイスブックで届かないので、今は。それをちょっと一言言いたかったのと、あと、僕、東都島連合なんですけど、今、防災リーダー隊の隊長をやっているんですけど、なったばかりなのでまだこれからの話なんですけど、若手を入れていくという話が、今こども食堂もやっているんで、そこで子供と防災とは絡めた形で、これからイベントを作ったりとか、それもSNS発信とかで人を集めたりとかして行って。町会に入ることが損やじゃなくて、300円とかお金払うのが、それを払ったほうが得やと思うような形のイベントをいっぱい入れていったら、多分若い人、子育て世代も絶対増えていくと思うので、それは今年1年かけてやっていこうと思っています。

それに向けての話としては、僕は大阪を変える100人会議というメンバーに選ばれていて、そこで防災関係の結構子供のワークイベントみたいなのをやっているんで、その辺をまた都島区に持っていこうと思っているので、また、ここまで連れていったら半年後、1年後には、ちょっともっと防災、都島区に根づいているかな、そういうことをやりたいなと思っているので、ちょっとこれは先の話なので、アイデアといえばアイデアなんですけど、また一緒に何かやれることがあったら、よろしくをお願いします。

【高野議長】

ありがとうございました。

今、江川委員のほうから、今後に向けての取組についてご提案もありましたので、また都島区といたしましても、各種されていて、今度TikTokも大変だと思うんですけども、そういったご意見もあるということでもたいろいろ連携して広めていただければというふうに思いました。

ほかにございませんでしょうか。

熊本委員、お願いします。マイクを持っていきますので、しばらくお待ちください。

それでは、熊本委員、よろしくお願いします。

【熊本委員】

西都島の防災リーダーをしております熊本と申します。

比較的防災リーダーの方は年配の方がかなり、うちの地域は多いんですけども、若いお父さん、お母さんを巻き込んでと思って、今年の秋ぐらいをめどに小学校や小学校のPTA、あと子ども会等を巻き込んで、防災イベントができないかなというのをちょっと考えている次第です。詳しいことはまだ、集まる時期なんかはまだ企画はしていないんですけども、やりたいなという熱は、防災リーダーの中でちょっと動いてきているという感じです。

以上です。

【高野議長】

ありがとうございました。

本当に地域によって差があると思いましたので、我々みたいにまだ経験とかアイデアがない地域にも、そういった知恵とか取組をどんどん発信していけたらなと思いましたので、うちの地域でも持ち帰って、またいい

ものだとお伝えたいと思います。ありがとうございます。

ほかにアイデアやご意見ありましたら。

失礼しました。近くにいて見えなかった。谷委員、お願いします。マイクを持っていきます。

【谷委員】

淀川地域の谷です。よろしくお願いします。

うちの地域では結構、防災訓練の活動が活発なほうでして、細谷課長はじめ町会長、連合会長が率先してすぐ動いてくれるので、毎年、年に二、三回はさせていただいているんですけども、このコロナ禍でも取りあえずできることから、2年間やっていました、防災訓練も。今年は十分動けるようになったということで、まず区の女性部のほうでも、ちょっと9連合あるんですけども、そちらのほうを集めて、女性部でも、他地域同士でもどういった訓練ができるかなというのを検討しているところです。うちの地域は取りあえず、まず町会、各町会長さんとかが安否確認をすごく重点的に行っていて、返事がなくても、取りあえずは訪ねるみたいな、タオルを取り付けてもらうとか、そういうようなのは接触がなくてもできることなので、文書になってしまいますけれども、各戸全部配布してやっていただいています。やっぱり紙ベースなんですけれども、SNSとかも見ない人もいますので、やっぱり地域だったら何度も何度もやっていくしか、呼びかけしていくしかないんですね、どうしても。

今度からは若手を入れるので、生涯学習のほうでも防災を取り入れて、ちょっと講演をしていただく形でやっっていこうかなというのを考えています。たまたま、生涯学習でも、区のホームページを見て来ましたという方が数人おられたので、そういう方たちからも、ちょっとこういうのを次やるので来てくださいねと声をかけていこうかなと考えています。

以上です。

【高野議長】

ありがとうございました。

中口委員、お願いします。

【中口委員】

桜宮の中口といいます。

防災の大体訓練の年に一遍ぐらいは各連合ごとで地活として区役所からやっていただいているんですけども、うちとこもこの3月20日にやったんですけど、各町、今回はコロナがあったので、町会長が来てもらったんですけど、町会長としては、うちとこも町長でやってほしいとか、範囲を小さくして、ぎょうさん集めるのも意見として出っていたので、そういう使い方もあるんですけども、今さっき言うておられたように、逆に、町会や連合単位ではなしに、小学校とか中学校単位でやったら絶対人集まると。子供さんに来てもうて、その親も来たらいいんですけど、だから年に何回か、役所には申し訳ないんですけど、日曜日とか使うてね。一応、僕とこの連合としても年に一遍やっていて、コロナになる前は小学校に集合だったんですけど、やっぱり小学校でやっても、来るのは、小学校の子供さんとその親は来なくて、地元の町会の人しか来ないんだから、小学校の子供と親を対象にした防災訓練したらいい。その年代がどっと増えると思うんですけども、そういう案を提案していただけてやっていただいたら、うんと進むのではないかなと思います。

しかし、いつもよう言うてくれてはるんですけど、災害の防災のマンホールってどこにあんねんって、皆さん知ってはりますかと言ったら、絶対手を挙げれる人いないと思うんですよ。各連合でも、今回ぽっぽてらす、あそこにも、あんなも作って、ボロボロバイセコーの動画で見たんですけど、あんなんとか、いろいろあるんやから、そういうのも知っといてもうて、どこにどう逃げるかという、この避難のことについても、やっぱりみんなに知ってもらおうというたら意外と、申し訳ないんですけど、地域活動としてやっているんやけど、来ているのはその中の町会に入っはる人だけというのが現状なんでね。これは加入率が今、都島区、どれぐらいか、三、四割入っているのかどうか知らんですけど、5万6,000ぐらいの世帯で、2万何ぼぐらいかなと思うんですけど、だから、そういう町会とか関係なしにできる小学校単位で、どこかの日曜日にどんとやったら絶対来ると思うんですけど、意見です。

以上です。

【高野議長】

ありがとうございました。

ほかにございますでしょうか。

【早光副議長】

副議長でありながら何回もしゃべっております早光でございます。

この中で、SNSとか、そういう啓発活動も大事ですけれども、先ほど言われました自助、共助という話で、たまたま江川委員が私どもの連合の防災リーダーをやってくれておまして、それまではちょっと年配の方で、30歳は若返って彼がやってくれているんです。なぜかという、今までの災害救助部長とか防災の方は、失礼な言い方やけれども、75とか、それは人事権の問題だと思うんですけど、よく言うのは、75が85を救助するのかというふうなことが議題でよく上がっておりまして、お互いに共倒れになるじゃないかというふうなことがあって、やはり自助、共助という中では、やはりそういう本当のマンパワー、若い原動力が必要だと思います。先ほど熊本委員が言われましたPTAあるいは子ども会、そういう方の横のつながりがやはりあると思いますので、縦より、縦もあるのかな、横のつながりもあると思う。ですから、江川委員、その横のつながりでいろいろな地域活動をしてきていますので、やっぱり横のつながりをちょっと増やしていくのが、遠回りでありながら案外近く、効果があるのかなと、かように考えております。

以上です。

【高野議長】

ありがとうございました。

予定の時間が近づいていますので、次の質問あるいはご意見で最後にしたいと思うんですけども、ほかにございますでしょうか。

また後ほど、ありましたら、次の時間、残りの時間でもご提案、ご質問いただいたらいいかなと思います。

では、2つ目なんですけれども、この区役所力の強化、先ほど説明、一遍にされましたか。これから改めてされますか。

【三井課長】

これから。

【高野議長】

では、担当課長、お願いいたします。

【三井課長】

政策企画担当課長の三井でございます。失礼して座らせていただきます。

先ほどの防災力のところでもSNSの発信というふうなことも触れていただきましたけれども、この資料1の裏面のほうに、区役所力の強化、広報の強化ということで課題として挙げてございます。

中ほどにグラフがございますけれども、区役所からの情報を何で入手しているかというのは、やはり広報誌が8割と、非常に多くて、ホームページ、SNSで、区からの情報というのを入手されている方が非常に少ないという状況でございます。

また、右側に自由意見欄からの抜粋を掲載しておりますけれども、広報誌はいつも読んでいるとか、情報が頼りだとお答えをいただいております一方、ホームページのページづくりはユーザーのことを考えたものということですか、SNSを利用した子供たちへの発信力が足りないといったご意見もいただいております。

その下に、広報の強化としまして、取組をまとめたような記載をしているんですけども、分析の結果としまして、広報誌の全戸配布で、広報誌によって区政の情報は多くの方に届けられているという面があります一方、下のほうに書いております、より幅広い区民の方に見ていただけますようなホームページやSNSの運用のさらなる工夫が必要だと考えてございます。

これまで発信してきた主なコンテンツというのも、ホームページ、SNSで、項目だけ挙げておりますけれども、そういったホームページ、SNSによります情報発信について、先ほどご審議をいただきました防災の関係の情報発信、そして見つけやすい発信の仕方というのもあろうと思えますし、そのほか、取り上げるテーマとか、閲覧していただけるような工夫、住みます芸人の活用も一つだと思えますけれども、そういったコンテンツなどのアイデアがございましたら教えていただければと思っております。よろしくお願いいたします。

【高野議長】

ありがとうございました。

今ご説明がありました内容を踏まえて、区のホームページやSNSで取り上げるテーマ、また閲覧したくなる工夫などについて意見交換を行いたいと思えます。

広報みやこじまで特に年配の方を対象に、身近な話題は広報みやこじまから、頼りになっているということ踏まえて、今区役所が強化しているSNS発信、ほとんどTikTok以外全部、今日インスタグラムもされましたのでやっているんですが、なかなか回転数や閲覧数が上がらないということで、もっと魅力のある内容や、また見たくなる、あるいは拡散というような言い方もされているんですけども、そういった工夫なんかについてご意見があったりとか、あるいは質問がありましたら、この時間帯にお願いしたいと思えます。

ご質問、ご意見、いかがでしょうか。

今、猪原委員より挙手がありましたので、猪原委員、よろしく申し上げます。

【猪原委員】

東都島の猪原です。

ふだんは、親子関係のウェブ配信などしている者でもあるんですけども、多分都島の中に、そういう感じ

で、各年齢層とか、子供向けのサイトを作ってもらってる団体さんとか、シニア向けに作っている団体さんとか、いろいろいらっしゃると思いますので、区役所さんだけで発信するのではなく、もっとそういう活動をしている方のところに載せてもらったり、お互い載せ合いっこしたりとかという感じで、もっと皆さんを巻き込んでいったらいいかなと思います。

それと、今SNS、主婦は結構インスタで探します、情報を探しているんですけども、今ちょっと、作ったばかりだと思うのであれなんですけれども、活動した報告ばかりなので、どちらかというと告知のほうを知りたいんです。報告も大事と思うんですけど、いやもう終わってるやんってなるので、やっぱり告知のほうに力を入れてもらって、こんな活動がありましたみたいな感じのほうを知りたいかなと思います。結構町会のこと、そんなにあんまりやっていないんですけど、フェイスブックは割とシニアの方、すごく見ていらっしゃるの、何かそういう使い分けとかもしていったらいいのかなと思うんですけども、いかがでしょうか。

以上です。

【高野議長】

では、三井政策企画担当課長にお答えをいただきます。

【三井課長】

政策企画担当、三井でございます。ありがとうございます。

確かにおっしゃるような区だけで、特に活動報告といった、あまり見慣れないような情報ばかり発信してはいけないというふうに思いますし。今日たまたま、今後いろんな事業者の方々と連携を図ればということで、都島区.comさん、柳生さんにちょっとお会いしてきたところなんですけれども、いろんな、働くお母さんに役立つ情報というのを発信されていますし、そういったいろんな発信されている方と連携させていただいて、もっと見ていただけるような幅を広げていければなというふうに思います。

先ほど江川委員にもご指摘いただいたんですけども、そのSNSの見られている年齢層とかそのターゲット層ですね、それを意識した発信も大事だなというふうに今感じましたので、そういった内容によって発信していくターゲットを意識した発信というのも取り入れていきたいというふうに思いますので、ありがとうございます。

【高野議長】

すみません、補足で。これからあるイベントの告知みたいなのがもっと見たいというご質問あったんですけども、それについてはいかがでしょうか。検討していただけますか。

【三井課長】

政策企画の三井です。

そうですね、はい。告知につきましても、広報誌とか情報を載せていたり、その情報を引っ張って、イベントごとに発信しているチャンネルはあるんですけども、それが見ていただきやすいような発信の仕方になっていないかなと思いますので、見ていただきやすいような発信の仕方というのを考えていきたいと思います。ありがとうございます。

【高野議長】

ありがとうございます。

ほかにございましたら、ご質問お願いします。

【江川委員】

それに併せてちょっと一つ。

【高野議長】

江川委員よりご発言があります。

【江川委員】

さっきも、コロナでフェイスブックは40代、50代見ていないという話を言っていたんですけど、子育てに対してとか、今、僕らのこども食堂とかもやり方を変えていて、イベントの告知自体をフェイスブックとかのイベントだけじゃなくて、Peatixと、こくちーずと、ジモティー、ただで全部出せて、誰が見てるかその年齢層が全部見れるやつがあるんですけど、そこで出したら地元の人が見て、イベントを拾っていくんです。そこで出したら子供関係のイベントとかは多分広まると思います。

以上です。

【高野議長】

ありがとうございます。

では、続いて谷委員にご質問、ご発言いただきます。マイクを今持っていきますので、お待ちください。

【谷委員】

淀川の谷です。

先ほども言ったフェイスブックに載せるというやり方も、まちづくりセンターの方から教わったんですけども、それを使って告知するとか、あんまり詳しい説明を教えてもらえてなかったんですね。だから、自分のことのように、終わったものを載せたらいいのかなとちょっと勘違いしていて、猪原さんが言われたように、前もって、うちの地域はこれをしますというそういう告知に使ってもいいんだというのが分かったんですけど、それをどういうふうな形で載せていったらいいのかなというのがちょっと、うまいことちょっと使いこなせていないので、そういうのもちょっと地域のほうにご指導いただけたら各地域でも活用していけるのかなとちょっと思いました。

以上です。

【高野議長】

これについてお答えいただけないでしょうか。松井まちづくり推進課長にお答えいただきます。

【松井課長】

まちづくり推進課長の松井でございます。お答えさせていただきます。

今、まちづくりセンターのほうで、去年はコロナ禍でなかなか人が集まらないということで、地域間の皆様がつながられるようにということでいろんなデジタルの情報化、SNSであったり、パソコンでつながったり、Zoomであったりそういった形の部分で支援をしていったりというふうな取組をしておりました。その中で、今、谷委員がおっしゃっておられたように説明はしたんですけども、もう少しその発信の仕方なり、どういうふうにそれを活用したらいいのかというふうなことをもうちょっと教えてほしかったということにつきましては、また、我々、ご意見いただいたことを持ち帰らせていただいて、改めてそういったご要望に応えられるように、

ちょっとまた中で検討していきたいと考えております。

その辺、地域の方々にできるだけ、今、人と人とのつながる、会いながらつながっていくという手法も欠かせないことでもあると思いますし、なかなかやっぱり会えない状況の中で、どうやってつながっていくのかという部分でいうと、やはりそういった情報化を使ってやっていくという取組も並行してやっていかなあかんと考えていますので、その辺、今日いただいたようなご意見も参考にしながら進めていきたいと考えております。どうかよろしく申し上げます。

【高野議長】

ありがとうございました。

ほかにごございますでしょうか。

では、前田委員、申し上げます。今マイクをお持ちします。お待ちください。

【前田委員】

前田です。申し上げます。

私は、先ほどからよく話題になっている30代の、小学生がいる保護者なんですけれども、やっぱりフェイスブックは見なくて、すみません、やっぱりツイッターもはまっている人はもうずっとやっていると思うんですけど、限られた人かなという印象です。TikTokとインスタに関しても、そういうのが好きな人はやってらっしゃいますけど、やっている人も、やっていない人も多いかなという印象で。よく見るのは、広報誌、年齢高い方というような感じで今お話あったかと思うですけれども、結構保護者の間で、この前、広報誌の表紙に小学校の参観の様子か何か使われていたんですけど、そのときに知っている子が写っていて、そのときは保護者の間で話題になったので、やっぱりみんな広報誌は持っていると思います。あと、みんながやっているのはやっぱりLINEだと思うんですけれども、LINEのほうはどのような活用をされているのかなと思って、伺えたらうれしいです。申し上げます。

【高野議長】

三井課長にお答えいただきます。

【三井課長】

政策企画の三井です。ありがとうございます。

LINEのほうは、子育て関係の情報を発信する子育てLINEということで、子育て支援の関係ですとか、子供さんを対象にした、また親御さんを対象にしたイベントなどの情報発信するチャンネルとして使ってはございます。今お話いただきましたように、どのようなというふうに聞かれているということは、多分あまり見られていないのかな、浸透していないのかなというふうに思いますので、その発信の方法もちょっと見ていただけるようなコンテンツ、内容にしていければなというふうに考えます。ありがとうございます。

【高野議長】

ありがとうございました。

ほかにごございますか。

ユーチューブチャンネルで住みます芸人など活用されているんですけれども、やっぱり目標よりも再生回数というのはまだまだ少ない状況ですか。区としてはもっと上がっていったほうがという状況ですか。それとも、

700回ぐらいだったんですけど、ぼっぼてらすは。

【三井課長】

政策企画、三井です。

そうですね。今ちょっと区役所のユーチューブチャンネルも開いたんですけども、チャンネル登録のほうも378人の方ですし、先日好評をいただきましたサンドアートも比較的上に出てくるんですけども、それで470回、ビーチに行こうというの650回というふうなところですので。ボロボロバイセコーのほうは、ぼっぼてらすのPRが732ということで、比較的区のユーチューブの中では多いほうかなと、今ざっと見た限りではあるんですけども、それでも、一般でよく見られています動画からすると全然、回数が桁が違うかなというふうに思いますので、何とかその辺のもっと見ていただけるようなコンテンツというのは考えていきたいなというふうに思います。ありがとうございます。

【高野議長】

すみません、議長でまた続けますけれども、今、やっぱりフェイスブックをほとんどしない、ツイッターでも限定的、TikTok、インスタよりLINEというお話があったんですけども、ユーチューブというものは、うちの子供なんかユーチューブばかり見ているんですけど、若い世代に有効なコンテンツなんでしょうか。逆に私もユーチューブを伸ばして行って回数が上がれば、区のためになるのかというのが正直ちょっと、そんな若い世代でもないのだからなくなっているんですけども、ユーチューブが有効であるというような意見もあったらありがたいですし、区としてもユーチューブを一番大事と考えておられるか、いかがですか。

【三井課長】

政策企画、三井です。

今は発信のチャンネルは、先ほどもお話がありましたような、見ていただいている層も違いますので、フェイスブックやツイッターでもできるかと思うんですけども、やはりユーチューブは動画として見やすいコンテンツかなと思いますので、そのチャンネル、チャンネルで、適した発信の方法をして行って、広報なり情報発信は多チャンネル化が必要かなというふうに思っていますので、特にどれというよりは、それぞれ適した媒体を使って発信していくというのが必要かなというふうに考えております。

【高野議長】

というお答えでしたので、それについてまたご意見やご質問等ありましたらお願いいたします。

【早光副議長】

副議長の早光です。

ここで、区民アンケートの自由意見欄から抜粋と、SNSを利用した子供たちへの発信力が足りないということを書いてあるんですけども、この発信力が、子供たちへのという発信力、何かの情報が足りないということだと思うんですけども、これについては、内容についてはご理解というか、情報はあるんですか、それ。

【三井課長】

政策企画、三井です。

ご意見いただきまして、子供たちへの発信力が足りないという中身がどうかというのは、何を指し指しているのか、はっきりとはちょっとつかめていないところがございます。区の情報発信、広報誌の情報

も、その他の区役所の情報、あまり、子育て相談といった面はありますけれども、子供さんたちに直接というのはなかなかなかったりもしますので、そういったところをご指摘いただいているのかもしれないなと思っ
ているんですけれども、明確にどの分野というのはちょっと分かっていないところでございます。

【早光副議長】

ありがとうございます。

続いてなんですけれども、発信力が足りない、逆に、ここに委員で来られている方、いろんな世代、多岐にわたっていると思うんですけれども、せっかくですからどういう情報が欲しいなというふうな具体的なこと、挙手でも、1人1つお得情報欲しい、50人までごみ袋ただだよとか、お得情報が出るんだとか、どういう情報が今、各年齢層の方求められているのかなと、聞いていただいたほうが具体的な話があるのではないかと、かように思います。

【高野議長】

それでは、各委員ごとに、アイデアがあったらいいのではないかとということだったので、すみません、第1回と同じで恐縮なんですけれども、お一方ずつにご意見、何かアイデアがあったらいただきたいと思うんですけれども、構わないですか。

では、端から回していきたいと思うんですが、中口委員からお願いいたします。

【中口委員】

別にそういうのではないと思うんですが。

先月、友渕で祭り、5月8日あったんですよね。そんなんもスポットで載せれるのかどうかというのも教えてほしい。

2日前に東都とか演芸大会あったりとか。ずっとちっちゃいイベントはやっていると思うんですよ。それでまた近所の人も行きたいと思うんですけれども、そういう情報は広報誌、紙で出すやつは締切りがあって大分前になって。やっぱり今さっき言ったこの機械を使ってのほうが発信力としては大きいし、行きやすいかなという気持ちはありますよね。第一、来月、7月10日って、選挙かもしれんですけど、その日に大阪の港湾局、大阪市とくっついている港湾局なんですけれども、そこがフェリー3台借りて、300人乗せて、大阪湾を一周するというイベントがあるんですけれども、そんなんもただ知ってはるのかというたら、締切りが今日の晩かあしたの晩ぐらいまでは、あれ、どこかで見たんやけど、どこで見たのかなという、そういうのがぱっと出てこないというのがあるので、やっぱりこういうのをうまいこと使うような方法を考えていかないかんじゃないかなと思いますね。

残念ながら、物すごい締めが早いので、情報が遅いということになりますよね。

以上です。

【高野議長】

今のご提案に対して区として動画としてこの細かいイベントもアップしたりすることは可能でしょうか。でも数が多過ぎてやっぱり全部は難しいですか。

【三井課長】

政策企画、三井です。

どのくらいのレベルでというんですか、細かさで載せていくか、全部載せていくと、例えば動画作成でしたら結構時間もかかったりしますので、その辺のところを媒体も考えながら、フェイスブックとか文字だけでしたら、細かいものも小まめに発信できるかなと思うんですけれども、その後、どのくらい対応できるかということもちょっと含めて検討させていただきたいと思います。ありがとうございます。

【高野議長】

では、続いて、中山委員、お願いします。

【中山委員】

中山です。

私はいつもユーチューブを毎日ちょっと、本当に5分とか1分半とか、短い動画を見ているんですけど、長過ぎると見てるのもしんどいので、短い動画を3日に1回とか、5日に1回ぐらいで上げたら、都島区も宣伝できるんじゃないかなと思います。

【高野議長】

では、お隣、熊本委員、お願いします。

【熊本委員】

今の議題とちょっと変わるかも分からないんですけども、時々、防災無線が鳴っている時期があるんですけども、何かしゃべっているのは分かっているんですけども、内容が聞き取れないんですね。近所の人も何か言っているけど、何言ってるんやろうなで終わってしまうんですけども、そういうのを文書というか、文書で発信できているのがあれば、それを見たら、みんな納得できるんだらうとか、防災の分で文書でも閲覧できたら、簡単に、今こういうことが起こっていますというのがあれば見てみたいなどは思っております。

以上です。

【高野議長】

議長ですけども、今のお話で、例えば拡声器からの声、確かに全然聞こえていないので回覧版とかで回すとか文章化することというのは可能でしょうか。区役所のほうにお答えいただきます。

【細谷課長】

ご質問ありがとうございます。

ぜひともこの場で宣伝を申し上げたいんですけども、大阪市防災アプリというのがあります。これを引っ張っていただきますと、大阪市防災アプリをぽつんと押しますと、お知らせというところがあります。このお知らせをぽつんと押しますと、今、鳴っていたスピーカーの内容がこれで見れますので、ぜひとも皆さん、これをご登録いただけたらありがたいかなと思います。登録方法は、ホームページを見ていただければありがたいなど。これですね、見ていただけたらなと思います。ご質問ありがとうございます。

【高野議長】

ありがとうございます。

では、お隣、山田委員にマイクをお渡しします。

【山田委員】

内代地域の山田です。

今の防災の話なんですけれども、内代から昨年でしたか、一応試験的に流してほしいと。こういった内容で流しているかということは、文章は全て連合会長のほうへ文書を流してくれと。もし何か質問、こういったものか分からないときは、連合会長とこへ電話していただいて、今の分はこうだったということを一いつ提案して、昨年流してもうて皆聞いてもらいました。以前よりも若干改善はされています。アナログからデジタルになったというだけであって、何がアナログで何がデジタルか私、あんまり詳しく分からないんですけど、以前よりは少しましかなというので、これを文章ですね、連合会長でなく町会長なりあるいは各町会の防犯部長あたりぐらいまで、それを流すような形にさせていただいたら問合せがあっても分かるだろうし、班回覧で何月何日こういったものを流しますよ、文章はこうですよというのをやればひとついいかなと私、今思っているの、早速ちょっと持ち帰って、この22日の日に連合役員会がありますので、それをちょっと提案をしていきたいなと一つ思っております。

それからもう一つですね。先ほど言っておられた防災のほうで、SNSを利用した子供たちへの発信力が少ないこと、これやっぱり学校とちょっと何かのタイアップしてやっていったらどうかなと思う。うちの内代小学校のほうも、防災については学校の授業の中で、発電機の利用の方法とか等々取り組んでほしいという話は上げているんですけど、その回答としては学校のほうからはいただいているので、どうか分からないんですけど、せんだって5月の内代の桜祭りを、ちょっと時期が遅れたんですけど、やりました。来られたのは約700名ぐらい。子供さんが約500名ぐらいですかね。その中でやっぱり内代、やるよというところで、区役所のほうから、ちょっと来て、こういったものを見てほしいとか、そういったPRもしていただけたらよかったかなと思うんですけどね。来られたら、区の社会福祉協議会のほうから少し出てきていただいて、ちょっとPR的なものをしていただいているので、また、うち、10月の末ぐらいもやりますし、そんなんでちょっとまた来ていただいて、そういったもので、ちょっとPRしていただくのも一つの方法かなと思っていますので、祭りというたら、やっぱり狭いところですけど、昨年の11月も約600名ぐらいの子供さんが見えていますし、どこからかずっと人づてに聞いて聞いて、区域外行ったらあかんよと言いながらも、都島区、生徒が190ちょいしかいてないのに、やっぱり500名ぐらい集まってくるというのは、他の地域から友達、友達で来ていると思うので、そういったところを利用して、ちょっと意見していただいたらいいかな。だから、学校へ話持っていくのも一つの方法かなと。学校へ行けばPのほうも行くでしょうし、逆にPの何かの会合があれば、そういったものもそこで話ししていただけたらまた逆に資料として出てくるんじゃないかなと思うんですけど。

以上です。

【高野議長】

ありがとうございました。

今のご意見、またご活用いただいて区政に反映していただければと思います。

お隣、平野委員。

【平野委員】

私は、ほとんどフェイスブックその他のやつ見ないんですよ。相変わらず広報誌のあれを紙で見て字で読んでしているほうなので。ちょっとこういうのは苦手な、苦手というかパソコンとかはするんですけども、そっち系はあまりしていませんので、あまりお役に立てないと思います。

【高野議長】

広報みやこじまは頼りにされているというご意見でした。ありがとうございます。

ご発言されていない方に順に回しております。池田委員ですね。お願いします。

【池田委員】

私も今、こちらの方と同じことで、ほか、いろんな情報発信の方法はあるんですけども、私も連合町会の関係の仕事をしてからは、特に広報、これは本当に出るたびに隅から隅まで読まさせていただいています。

それと、いろんなことで他の地域ではこういうことをやっている、ほかの地域ではこういうことをやっているということも広報にちゃんと載っていますので、私どもの会におきましても、あそこの地域ではこういうことをやっているね、あそこの地域ではこういうことをやっているねということをいろいろと参考にしながら、我々の会でもやっておりますので、私の年代としましても、やはり情報発信におきまして広報が頼りですので、今後ともよろしくお願ひしたいと思ひます。

以上です。

【高野議長】

すみません、時間のご都合もあるので、1回も発言されていない方に回していきます。前田さん、言われましたね。高田委員です。

【高田委員】

高田と申します。

私、ちょうど50代で、子育ても終わりました、小学校とかのPTAとかもしていたのはしていたんですけども、そこを卒業してしまうと、やはり地域の活動にはほとんど参加していない状況ということで、広報誌でいろんな情報は目にするところがあるんですけども、私もTikTokとかそういったことも全然していないので、基本的にはやはりLINEが私の世代でも皆さんやってらっしゃいますし、そこで情報がこう、今、大阪府のほうのLINEの何か友だちの追加していて、そこからは何かイベント募集とかの連絡もあったりするので、そういうのは見ますので、もしLINEでしていただけるのであれば、そういう子供の世代でもなく、いろんな世代の方が見れるかなと思ひます。

【高野議長】

ありがとうございます。

では、濱崎さん、お願いします。

【濱崎委員】

中野地域の濱崎と申します。

私も平野委員、池田委員と一緒に、もう専ら広報誌から情報を得ているほうなんですけれども、やはりどこを見るかといったら、イベント情報とか、どうしているかなというところを見ております。割と、今回スマホ教室をやってほしいという意見がとても年配の方からあって、実際に社会福祉協議会で開催されたら、もう人数に制限があって、また今度2回目をされるということなので結構そういう、これからやってみただけ、もう全く、スマホ、分からないという年配の方々が大変多くて、そういうユーチューブとかTikTokとかと言っても、もう80代ぐらいの方になったら、もうスマホで通信するのが精いっぱいという感じなんですけれど

も、これから新しい、ちょっとずついろんな手段が変わってくるので、そういう新しい機器を使いこなせるような情報の発信とか教育をしていただけたらなと、そういう機会が多くあれば、結構興味を持ってやってみたいと思われている意欲的な方が多いので、ぜひぜひ区役所関係でも、新しい情報を年配の方が持っているようなそういう場を作っていただけたらうれしいかなと思います。

以上です。

【高野議長】

ありがとうございます。

ということでお一方ずつにご意見いただきました。たくさんのご意見いただいたんですけども、全部が次年度に反映できるか分かりませんが、しっかりと集約して、またお持ち帰りいただけると思いますので、そういったフェイスブックのやり方とかパソコンとかITのご指導とか、ご意見をまた反映して検討いただければ幸いかと思います。

ユーチューブに関しては、熊本委員からもご意見あったんですけども、やっぱり頻度があまり上がっていないと見るのを忘れてしまったり、もう見なくなってしまうので、大層なものじゃなくてもいいのでたくさん上げていただいたら、閲覧回数も上がるんじゃないかなと、何か子供も毎日人気のあるところは、やっぱり頻度が密のところのやつは見ているみたいなので、そういったこともいいかなというふうに思いました。

時間が来ていますので、この議題は一旦終わりたいと思います。また、アイデア、終盤にございましたら、後でも構いませんので、ご発言いただければと思います。

では、その他としてです。

都島区住みます芸人を活用した地域活性について、こちら三井課長からご報告をいただきます。お願いします。

【三井課長】

政策企画の三井です。失礼して座らせていただきます。

住みます芸人を活用した地域活性についてということで、資料2のほうに、これまでの取組と今後の予定を掲載しております。

以前、区政会議でも報告いたしまして、各地域のほうで、いろんな取組、イベントに呼んでいただいているところなんですけれども、一昨日もひがみや演芸会で漫才とか抽せん会の進行をやっていただきましたけれども、また、この下にありますように、4月、5月にも、司会や漫才をしていただいていますので、申し訳ないんですけれども、まずはご覧になった委員の方から簡単に、どのような雰囲気であったかとか、情報共有をもしいただければ幸いです。

また、それを踏まえて、今後の活用についてのご意見とか、活用が見込まれるイベントとか、もし何かございましたら、併せて教えていただければ幸いです。よろしく願いいたします。

【高野議長】

今、担当課長より、ボロボロバイセコーの芸人、都島区住みます芸人についてのご発言がありました。これまで地域の皆さんのところに、ボロボロバイセコーが行って、ひがみやの演芸会には来てくれたんですけども、これまでも呼ばれた方がいると思うんですけども、どんな印象とかあるいは活用についてご意見等ござ

いましたらお願いいたします。

【早光副議長】

この中で、ボロボロバイセコーが来た団体さんは4月2日の京橋地域活性化機構で来ていただいていますよね。

【江川委員】

はい。

【早光副議長】

それとあと、内代の桜祭りも来てもらっていますよね、山田委員。分かりますか。内代の桜祭り。

【山田委員】

はい。

【早光副議長】

まずはお二人からのご感想というか、そうですね、三井課長が言われた意味は、印象というか評判というかご意見を伺ったということですのでよろしいですね。

【三井課長】

はい、そういったことを教えていただいて、今後さらに活用促進というPRになればなということでございまして、すみません、よろしくをお願いいたします。

【高野議長】

今、京橋と内代地域では出演されたということなので感想をお願いしますという副議長からのご提案だったんですけども、二方、ご感想をいただいてよろしいですか。

では、江川委員、お願いいたします。マイクをお持ちしますね。お待ちください。

【江川委員】

江川です。

うちは三、四年前にあった台風21号で、桜が多かったからいっぱい折れて、そのクラウドファンディングで桜を藤田邸跡公園に植樹したんですけど、その桜の下で毎年、その育っていく桜を地域の人みんなで見るといふ会をやっていて、なので本当に花見の人で、もう地域じゃないいろんな人が来ていて、その中でシートを広げて漫才していたんですけど、そしたらやっぱり大きい声出して、住みます芸人のを付けて、華のある2人がしゃべり出したら人だかりができて、むちゃくちゃいいイベントになりました。また来年もこの桜の下ですべてイベントをやっていくので、そのときまたお願いしたいと思っています。

【高野議長】

ありがとうございました。

では、続いて山田委員にマイクをお渡しします。お待ちください。

【山田委員】

先ほども言いましたように約700名ぐらいの方が来られて、そのうちアンケートを100枚取りました。この中で、ほとんどが各地域、町会で、催物を出している関係で、もう答えはほとんどそっちに行っています。ただ、私も百歳体操等々、高齢者対象のほうでいろいろ首を突っ込んでいますので、話聞いてみますと、すごくうまかったと、よかったねという話で耳に入ってきております。どのようによかったかというのは、私、実際に自

分とこの地域の催物にも精いっぱい、見ることも出来なかった状況なんですけど、一度その辺、よかったというのをもう一度、言われている方はもう知っていますので、ちょっと聞いてみようかなと思っています。

それと、1月、ちょっと先なんですけれども、老人クラブのほうが毎月毎月定例会をしております。この中で、2か月に1回ぐらいは、食事の前に20分ぐらいフラダンスをしていただいたり、いろいろ行事しているんですけど、この間ちょっと会長に話ししたら、ちょっと今のところ2か月2か月のあれがもう人が決まっているので、年明け、新年会にちょっと一遍来てもらって、したいなという話も聞いておりますので、ひょっとして前倒しになって、今年にそれが入ってくるかも分かりませんので、雰囲気としてはすごくよかったよという声は私のほうに来ているので、どうよかったか、ちょっともう一遍確認だけして、次、私もちょっと見せていただいようかなと思うんですけど、これからまたいろいろ何回か、秋にもいろんな催物しますんで、そのときにもまた来ていただいて、どういう話、漫才をされているのか、司会がどれぐらい、また皆さんの地域でも司会の上手な人もおられると思いますけど、ちょっと私も首突っ込んで一緒にさせてもらうのも楽しいかなと、素人的に考えているんですけど、そんな状況でございます。

【高野議長】

東都島、おとといに、ひがみや演芸会で漫才をボロボロバイセコーが披露されましたので、早光副議長にご発言いただきたいと思います。

【早光副議長】

今までの芸人さんと比べていいのかどうか分かりませんが、ここ最近では、面白い、うまいんじゃないかなと思います。まだまだ住みます芸人になられて、都島区のことをまだあまりよく分かっていないんですけど、これからもうちょっとなじんでいければ非常に有望で、彼らにもPRしていただいて、都島区全体がタニマチとなって、彼らを全国区に押し上げていくと、また都島区のネームバリューも上がっていくのではないかと、かように考えておりますので、ぜひとも、いろんなイベントに来ていただいて、バイセコーさんと都島区が上がっていけばいいなと。何か変なまとめになりましたけど、以上でございます。

【高野議長】

ありがとうございました。

私も初めて、私、司会とかもするんですけど、ひがみや祭りでひがみや地域はさせていただいて、そのたびに住みます芸人の方とはご一緒するんですけど、今回演芸会も3年ぶり、カラオケじゃない形での復活となりましたので、ボロボロバイセコーをお呼びして、非常に都島区住みます芸人の方は、これまでの私、関わったのは、バネ、それからマダムはサウスポー、ボロボロバイセコー、3代になるんですけど、みんな、素晴らしい、礼儀正しい好青年だなということで、結構無理な注文もすごく聞いてくれるので、今回のボロボロバイセコーも各地域のイベントに花を添えていただけるんじゃないかなという印象を持ちましたので、ぜひご活用いただければと思います。

司会は私、ただじゃないですけど、ただみたいな値段でできますので、そちらのほうもご用命いただいたら大変うれしいです。それはもう全然お話としておいていただいて。ボロボロバイセコー、ご活用ください。

時間も大分迫ってきましたので、この案件についてももしご意見、ご質問ありましたら次を最後にしたいんですけど、よろしいでしょうか。大丈夫でしょうか。

それでは、これで議題を終了したいと思います。

では、最後に、本日ご出席の議員の皆様からコメントをお願いしたいと思います。

それでは、今日ご出席のまずは八尾議員からお願いいたします。マイクを今お持ちします。

【八尾議員】

本日は大変ご苦労さまでした。

私もお聞きしてしまして、特に広報、情報発信のことでちょっと気づいたのは、SNS、非常に有効な手段だと思うんですけども、現状はやはりアナログとデジタル二分しているというか、まだまだアナログの部分が多いのが現状は現状です。ですから、両面にしっかりと対応していく必要があるのかなと。当然デジタルの部分はデジタルでしっかり、さらに進めていくべきですし、ただ、それについていけないところもありますので、そこはしっかりと手当てをしていくという、そういった観点も必要かと思いました。

あと、今よく言われているのは、デジタルディバイド、デジタル格差ですね、これが非常に大きく出ております。先ほどありましたように、広報誌の場合はリアルタイム性がないんですね。SNSとかそういったデジタルのほうは物すごく瞬間で情報発信できるんですけども、そこがすごく差が出ています。

そういった意味で、先ほど委員からもお話もありましたけれども、そういった人たちにしっかりと、デジタルが使えるような形に持っていくことも一方では必要ではあるのかなと思っています。これは議会でもそういったことをちょっと推進をしている最中なんですけれども、これはまた各連合単位ぐらいには、デジタルになじんでいない方のために講習会なりを今後していくようにしていきたいなと思っております。

以上です。

【高野議長】

ありがとうございました。

続いて、岡田議員です。よろしく申し上げます。

【岡田議員】

お疲れさまでございます。岡田でございます。

先ほど防災のお話があって、ちょっとご案内になるんですが、大阪府でやっている大阪880万人訓練というのを毎年やっているんです。今年は9月2日に行われます。これ名前だけ聞かれていて、勝手にやってんねんやろうなというふうに思われているかもしれないですけども、実を言うと、参加できる形になっていまして、ホームページを出していただいたら分かるんですけども、例えば参加予定単位と部分で言うと、企業、団体、学校、自治会、行政機関、個人、学校でも保育所、幼稚園、大学、高校、小中というのを全部、こういうふうに単位で参加できるようになっていて、何をするかというのもここに書いて、一斉にやるという部分をやっている。ああいう今出ている分ですね。これ毎年やっているんですけども、こういうのも防災の中で、地域で活用いただいたらいいんじゃないかなというふうに、お話を聞いていて思いました。

なかなか、ばらばらでやっている意識づけがやっぱり低くなっちゃうので、単位で年に1回これ、ばーんみたいな形でやるほうが効果的にはいいのかなというふうに僕自身は思っております。

以上でございます。本日はご苦労さまでございます。

【高野議長】

ありがとうございました。

続いて、府議会から魚森議員にご挨拶をいただきたいと思います。お願いします。

【魚森議員】

皆様、お疲れさまです。魚森です。

僕も今、第11回の大阪880万人訓練の話させていただこうと思ったんですが、もう市会議員の岡田先生に言われましたので、すみません、ここは割愛します。

以前からも申し上げていることなんですけれども、なかなかやはり大阪府と大阪市、やっている仕事というのは違まして、皆様と直接関与することというのはなかなか少ない部分というのが大きくあるんですけれども、極力区長と話を進めながら大阪府政のほうでできることは進めていきたいと思っておりますので、また、委員の皆様からいろんなご意見をいただいて、府政のほうに反映していけたらなと思っておりますので、よろしくをお願いします。

それと、本日より梅雨入りしたということもありまして、皆様、お体ご自愛ください。よろしく申し上げます。ありがとうございました。

【高野議長】

ありがとうございました。

それでは、本日はオンラインで参加していただきました市会議員の大西議員にご挨拶をいただきます。よろしくをお願いします。

【大西議員】

皆さん、お疲れさまです。すごい長い会議やったですけど、お疲れさまでございます。活発な意見で、本当によかったと思っています。

まずは、ちょっとコロナ禍でなかなか集まれへんという形なんですけど、僕、リモート1人ということで、ちょっと寂しいなと思いました。

あと、役所のほうもありがとうございました。物すごいクリアな音声でやらせていただいて本当によかったと思っております。ありがとうございます。

前はちょっとあかんかったけど、今回はすごくいいマイクにしてもらいまして、ありがとうございます。

今後もこういう区政会議にはこういうリモートでも、私たち、議会でもそうなんですけれども、もう少しリダツジョを持ったやり方でやらせていただきたいなと思ひまして、僕はあえてリモートで参加させていただきました。すみません。皆さんに会われへんのはちょっと寂しいですけども、リモートで参加させていただきました、今日は。

僕は違った角度からちょっとお話しさせていただこうかなと思いました。私もSNSというのは、すごく多分、皆さん、使わなあかんやろうという形でSNS、すごい多分、活発な意見があったと思うんですけど、先ほど前田委員がすごくいい意見やなと思って聞いてたんですけど、LINEを活用したやつというのはすごくいいなと思ひます。今やっぱりいろんな集客というのは、すごいやっぱりLINEを使った集客が多いんです。LINE@というのを皆さんご存じですかね。入ってはる方とかいてはりますか。分からないですか、LINE@。これ、よくグループLINEというのはあると思うんですけど、それよりもちょっとリテラシーが高いものなんですけれども、今LINE

って6,800万人入っていて、日本人の人口の53%というのがLINE登録しているんです。なかなか、LINEのツールというのはデバイスはこういう、スマホは絶対持つてはるということなんですけれども、LINE@という形で今集客を全部、すごいビジネスの世界でも、こういうLINE@を使った集客ビジネスというのははやっているの、これ、この行政でも使われへんかなと思っっているんですけど、役所の方、どうですかね。

【高野議長】

お答えいただきますので、お待ちください。

【三井課長】

ありがとうございます。政策企画の三井でございます。

ちょっと私、LINE@、あまり詳しくありませんので、ちょっと勉強させていただいて検討させていただきたいと思っいます。ありがとうございます。

【大西議員】

LINE@にすると、やっぱりインプット、アウトプットが、両者書き込みもできない、なかなかセキュリティーの問題もあると思っうんですけれども、書き込んだりすることもできるので各自治体でID、パスワードを持ち込んでやっていくというのもありかなと思っいました。

以上でございます。ありがとうございます。

【高野議長】

ありがとうございます。ご挨拶とともに貴重なご意見もいただきまして、また長時間の参加、ありがとうございます。

ということで、あと議員の方々にもお忙しい中、参加していただき、またご挨拶もいただきました。ありがとうございます。

これを持ちまして、本日予定してました議題は全て終了しました。皆様のご協力により、議事が円滑に進みましたことをお礼申し上げます。そしてまた今日いただいた貴重な意見、またご検討いただいて区政に反映していただきたいと思っいます。

それでは、司会進行を事務局にお返しします。

【吉村課長】

ありがとうございます。

本日は、高野議長、早光副議長をはじめ、各委員の皆様方におかれましては、長時間ご議論をいただきまして、誠にありがとうございました。

次回の全体会議は10月の開催を予定しております。10月でございます。日程等につきましては後日、改めまして、事務局よりご案内させていただきますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

それでは、最後に、区長の大畑から一言ご挨拶させていただきます。お願ひします。

【大畑区長】

どうも改めまして、ありがとうございます。区長の大畑です。

たくさんの議論、今日、広報と防災と、ポイントを絞らせていただいて、たくさんの議論をしていただいて、やはり方向性が見えると、たくさんご意見いただけるなど、改めてこの形で、また10月も進めていけたらなど

思います。魅力発信とか、子育て支援はまた部会のほうでしっかりと議論をさせていただければなと思います。

今日は防災のほうで幾つか、すみません、最後にちょっとまとめさせていただきたいんです。

江川委員から、町会に入るのが得に見えるイベント、これはやっぱりメリットが大事だなと。ただ、お願いレベル、それから付き合いレベルではもう町会に入っただけないと。そのメリットをどう出していくのかというのを我々区役所としてもちょっと考えていきたいなと思います。

それから熊本委員のおっしゃった若い親を巻き込んでいく、防災イベントを実施するというので、関連して中口委員から、小学校の子供と親の防災訓練、この発想はいいなと思ったんですね。親と子の丸々イベントというのは結構あるんですが、親と子の防災訓練って、あんまりないなと。これも結構いけるのかなというふうに思いましたので、ちょっと参考にさせていただければなと思います。

あと、広報のほうでは、猪原委員がおっしゃっているように、活動している方のアップですね。これも我々の欠点だと実は自覚をしまして、どうしても区役所が発信しようとする、公平性を、都島区は、ここから見ると、僕も外から来た人間なので、ここから見ると、ちょっと公平性を意識し過ぎて、誰かを取り上げたら誰かを取り上げないといけないという意識が強過ぎると、なかなか皆さんの内容というのも取り上げることができなくなってしまうので、その辺のちょっとハードルを低くして、できるだけたくさんの方が参加型かというか、参加できるような形で、どんどん公募していきたいなと思います。

それから告知が知りたいと。もうおっしゃるとおりだと思います。何かイベントをしてその会場にカメラを入れて取材をして、それを記事に載せるのが実は一番楽なんですけど、でもそれではいけないというのは改めて思います。我々として、やっぱり情報のアンテナを高く張ってスピーディーに、先に取材をして、事前告知をするというのがどれだけできるかなというのは、今日、改めて宿題をもらった気がしますので、またそのあたりも頑張っていきたいなと思います。

また、40代以上の方、前田委員から、フェイスブックは見ないと。まさに僕も同意見でして。創始者のCEOのザッカーバークさん自身が、フェイスブックはミッション、役割を終えたということで、社名までも、ご存じのようにメタというふうに変えて、メタバースを意識した社名になっていますので、フェイスブック自体はもう終わっていくんだろうなと。であれば、今後どういうコンテンツが必要なのかと。

最後、議員の先生からもご意見いただいて、八尾先生がいいことをおっしゃっていただいたんですが、何もデジタルにこだわるだけではなくて、広報誌を見る方は本当ずっと広報誌で情報を拾っていただいて構わないと思うんですが、我々危惧しているのは、若い方が広報誌を見ないと。その広報誌を見ない方にどうやって情報発信をしていったらいいのかなということを考えていきたいということで、八尾先生おっしゃるように、デジタルとアナログをうまく融合して、これから発信をしていきたいなというふうに思っております。

今日、遅くまで、委員の皆さん、それから議員の先生方、どうもありがとうございました。本日はどうもありがとうございます。

【吉村課長】

以上をもちまして、令和4年度第1回都島区区政会議を閉会させていただきます。

本日は誠にありがとうございました。長時間、お疲れさまでございました。